

「土しゃさいがいについて」

京都府 京都市立西京極小学校 2年 <sup>おかざき</sup>岡崎 <sup>もえり</sup>萌里

わたしは、きょ年の夏おじいちゃんの生まれた家があるけいほくで大雨がおこした土しゃさいがいのけいけんをしました。

はじめは、よく雨がふるなあと思っていたけど雨は、やむどころかどんどんつよくなってかみなりもなりはじめました。

わたしは、今までそんなけいけんをしたことがなかったのでふあんですごくこわい気持ちでした。

そのうちおかあさんのスマホにさいがいじょうほうのひなんのメールがとどくようになりました。

メールは、なん回もなん回もきました。

おかあさんは、いつでもひなんできるように、にもつをまとめていました。

よるおそくに、きんじょのおじさんがちかくの山がくずれてみちがふさがってるから、もうどこにも行けないと言っていました。

それからなんじかんも雨は、ずっとやまなくて、雨の音といっしょに外からガーという大きな音が聞こえてきました。

ようすを見に行ったらおかあさんが「じゅうきがきてるよ。」と、いそいでもどってきました。

家のとりの小さな川がどしゃでいっぱいになってあふれていたの、じゅうきの人がどしゃをすくってくれていたのです。

家の前のみちが川みたいになって、たくさん水がながれていました。

つぎの朝、雨がやんで外に出てみたら、アスファルトのどろろが土の色になって石や木がころがっていました。

わたしたちは、ぶじにたすかったのです。

それは、おぼんのじきのよなかなのにすぐにきてくれたじゅうきの人のおかげでもあると思っています。

だけどこれからは、もしも同じようなことがあったら、早めに、あかるいうちにひなんしたいと思います。

同じようなけいけんをする人たちにもそうしてほしいと思います。